地域医療の橋わたし

WE LOVE

ちしき

October 2021
地域医療支援学レター vol. 37

CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
  リレートーク第37回
- 障害児者医療も地域医療です
  西部島根医療福祉センター
  院長 中寺 尚志 先生

島根大学医学部 地域医療支援学講座

ACTIVITY REPORT

活動報告

令和3年6月29日(火)18:00～19:30

地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会（Web開催）

【参加者】学生9名、教員4名

令和3年2月から5月の間に、延人数12名(1年～6年)の学生が実習に参加した。報告会は実習目標に照らし、学び・今後の課題をまとめプレゼンテーションを行った。発表毎に質問や意見交換を行い、教授からは一人一人に対しフィードバックが行われた。

参加動機はCBT・OSCE後に臨床推論の学習を深める事や初期研修候補病院での実践や環境の確認、低学年では総合診療医への関心等様々であった。領域は総合診療科と精神科で、病院内にとどまらず関連の診療所や救急外来での実習も体験させて頂き、知識・技術の側面だけでなく、患者さんへの対応から医療者としての態度についても学びが報告された。学生の感想で、今実習時の体験が「知識としてつながる、生きた知識になっていることを実感する」という言葉が印象に残った。

令和3年7月12日(月)17:30～19:00

第1回えんネット交流会（Web開催）

【場　所】みらい棟2階共通カンファレンスⅠ
【参加者】女性医師11名、学生3名

今年度1回目の交流会を対面とオンラインのハイブリッドで行った。自己紹介を行った後に各々の現在の悩みなどを共有した。学生からは勉強と実習などの両立やロールモデルについて相談があり、先輩医師からは趣味の時間を持ち気分転換しながらやることの大切さやロールモデルの存在が成長を促すこと等の助言があった。

参加医師の世代も幅広く、産前産後休暇や育児休暇の取得について、また未就学児から思春期の子育ての悩みまで相談があり、子供の成長にあわせて悩みも変わっていくことを共有した。その他、男性の育児休暇の取り方や働き方についても情報交換を行った。

参加された女性医師や学生からは、色々な世代の話が聞けて楽しかったと感想を頂いた。

次回は、12月頃を予定しており、多くの皆さんの参加を期待したい。

令和3年8月1日(日)10:00～12:00

令和3年度総合診療医ブラッシュアップセミナー（Web開催）

【講　師】島根大学医学部附属病院 院長 椎名 浩昭 先生
【テーマ】「島根県における、これからの島根大学医学部附属病院の役割」
【講　師】しまね総合診療センター センター長 白石 吉彦 先生
【テーマ】「しまね総合診療センター　～Neural GP network～」

第1部は4月に病院長に就任された椎名先生にお話し頂いた。先生は「病院内・医学部内・地域内の真の連携強化は、その壁をとり機能強化を図ることが大事である」と述べられた。その為には「資本・智識・人材」の3本柱が必要で、これが1つでも欠けると安定して地域に医療が提供できないとされ「戦略的な病院運営の構築」「基礎医学部門との連携」「県立中央病院との連携強化、出雲医療圏での臨床研修医の確保」を挙げられた。またCovid-19対策は、「災害と認識し入院調整や重症患者受入れのシステムを構築し低い死亡率を実現している」と述べられた。

第2部は白石先生にしまね総合診療センターをご紹介頂いた。また、先生の医師としての歩みやプライベートでの楽しみ方を熱く語られた。島根の総合診療に新しい風が吹き、今後の更なる発展を感じた。

令和3年8月1日(日)13:30～17:00

令和3年度総合診療専門医プログラム説明会（Web開催）

【講　師】雲南市立病院 地域ケア科 部長 太田 龍一 先生
【テーマ】「総合診療という専門性を再考する～楽しく医師として働くTips～」
【参加者】29名

先生は「地域で医療職を育てる」というミッションを持ち、総合診療医として臨床・教育・研究に当たられ、本会では医学部生との研究もご紹介頂いた。

先生が考えられる総合診療は「臨床・教育・研究をバランスよく進めながら展開していくこと。更に、常に努力を重ね楽しく医療を行える一生使える専門性」と述べられた。最後に、先生はメンターから贈られた「指導医は教育環境の構築に心血を注ぐべきです」という言葉を常に意識し総合診療教育を行っていると講演を締めくくられた。

続いて、県内9病院に総合診療専門研修プログラムについて説明を頂いた。これを機に一人でも多くの医学生・初期研修医が総合診療専門医の道を志してもらえたら幸いである。また、初期研修医等が各病院のプログラムを気軽に視聴できる体制の構築が必要であると考えている。

令和3年8月16日(月)～20日(金)

令和3年度地域医療体験実習Ⅰ（夏季地域医療実習）＆報告会

【報告会】令和3年8月20日(金)10:00～12:00(Web開催)
【実習参加者】1年:11名　2年:3名　3年:5名　4年:3名　計22名

新型コロナウイルスの第5波が到来する中、県外の学生の参加は中止になったが、7圏域の保健所と病院関係機関の協力を得て、夏季の地域医療体験実習Ⅰを実施することができた。

学生達は今年度も一部対面授業はあるもののオンラインでの履修が続いた。臨地での実習は、同期はもちろん他学年の学生との交流も図られ、緊張の中にも期待に満ちた実習になった。

最終日の報告会はオンライン開催で、学生・教員に加えて実習関係者、しまね総合診療センターの先生方にも参加頂いた。学年の垣根を払ったディスカッションは活発に行われ、経験豊かなしまね総合診療センターの先生方のコメントは事象の意味づけや学びを更に深めるものとなった。

令和3年9月13日(月)18:00～19:30

令和3年度ワークライフバランスセミナー（Web開催）

【講　師】NPO法人ファザーリングジャパン理事 徳倉 康之 先生
　　眼科学講座 助教 杉原 一暢 先生
　　眼科学講座 医科医員 河野 通大 先生
【場　所】みらい棟4階ギャラクシー
【参加者】21名

「男性育休が働き方も組織も変える!」をテーマに開催した。

杉原先生は現在育休中で、赤ちゃんを抱かれてお話しされた。育休を取得され「得手不得手はあるけど、男だって育児は問題なく可能。いつか第2子が生まれたら、もう一度育休取ります」と早くも宣言された。

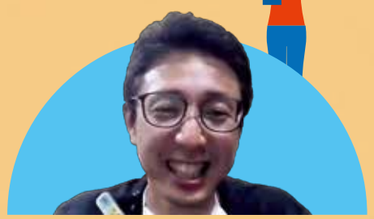
河野先生は2人目出生時に育休を取得され、育児に対する当事者意識が生まれ、長男との絆が深まったこともお話しされた。

特別講演として徳倉先生にお話し頂いた。働く人すべてが働きやすく、制度を変えるのではなく組織風土を変える心掛けが大切だと話された。また、少しの工夫で人が辞めない組織を作ることができることもご教授いただいた。

これからの時代をとらえた、まさに組織風土から社会を変えていけることを勇気づけられるお話であった。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療Webinar



Inaka Doctor
～山の中で奮闘する。寄り添える命がある限り～

【実施日】令和3年7月20日(火)18:00～19:00
【講　師】飯南病院 医長／来島診療所 所長
　　松本 賢治 先生
【参加者】13名

概　要

先生は飯南病院にご勤務されて5年目の総合診療医である。医師は外来・入院診療のみならず、訪問診療、健診、学校医等様々な役割を担われている。多職種との連携が欠かせずコミュニケーションが重要な要素であると話され、そこには専門職との顔の見える関係の構築が伺えた。

先生は総合診療医について専門医との違いを、疾患の治療を優先する専門医に対し、総合診療医は患者さんの生活を主体に支える事にウエイトを置くと説明された。また、総合診療の魅力を「その人の人生に伴走する。その人の想いに寄り添う」と表現された。

最後にネイティブアメリカンの教えで「目を奪われるもの…中略…しかし、心を奪われるものだけを追い求めなさい」というメッセージが学生に贈られ、自分の思い描いている医師像を作って、それに正直に道を進んだらよいと締めくくられた。

①価値観が変わる？ちょんぼしイイ話 ～Island Doctorは本当に幸せなのか～ ②初代チーフレジデントの活動

【実施日】令和3年8月26日(木)18:00～19:00
【講　師】島根県立中央病院 坂口 公太 先生
　　隠岐広域連合立隠岐病院 小川 将也 先生
【参加者】36名

概　要

講演は、坂口先生がファシリテーターとなり、隠岐病院に赴任されて3年目になる小川先生が離島での診療の状況や医師としての成長をもたらした2症例、プライベートをご紹介頂いた。テーマの「ちょんぼしイイ話」の『ちょんぼし』は隠岐の言葉で「ちょっと」の意味だそうで、学生にとってはちょっといい話がちりばめられた内容であった。また、副題の「Island Doctorは本当に幸せなのか」は意味深な問いかけであったが、その答えは講演早々に「仕事とプライベートを充実させたい方は隠岐へ」とPRに転じられた。オンライン開催の講演は、学生への問いかけや回答など参加型で、視聴頂いている先生方からのメッセージもチャット上で飛び交う等双方向性で行われた。先生方からは経験値から発せられる医師としての対応や姿勢についてメッセージを頂いた。

2021年度版 地域の小規模多機能病院について

【実施日】令和3年9月3日(金)18:00～19:00
【講　師】気仙沼市立本吉病院 病院長
　　齊藤 稔哲 先生
【参加者】21名

概　要

受療行動の図から「地域医療とは、1000人の住民全てを対象に、200人の外来診療をしながら10人の重篤な病気の発生を予防する活動」と説明頂いた。ある日の外来をご紹介頂き、対象を限定しない「インフラとしての医療」が印象に残った。またBio-Psycho-Social modelについて症例を用いて説明頂き、患者さん一人ひとりの背景にある医療の提供がある事を学んだ。

地域医療とは欠けているピースを探して、そこを埋めていく作業で、本吉病院ではコロナ対応について入院以外の「①発熱外来②検査③ワクチン接種」を担われている。地域の弱い部分を補強し全体のバランスがとれた医療の提供が出来るよう調整していく事が大事であると学んだ。

最後に総合診療医の役割を「幸せの基盤となる生活を住民と一緒に作っていく事」と説明され、全てお話がここに集約されている事に感動を覚えた。

Career Webinar

【実施日】令和3年7月15日(木)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部精神医学講座 講師
　　大朏 孝治 先生
【参加者】23名

概　要

先生は山口大学のご出身で2016年から島根大学にご勤務である。「精神科医からのメッセージ」と題してお話し頂いた。精神科医の仕事について疾患やその治療の特徴からお話し頂き、特に印象に残ったのが「他科と違うのは、症状だけ診ていては本質的に良くならない、人は心理機能が発達する中で様々な経験をし、その養育環境が全く違うストーリーを描くため、生活史を踏まえ『その人』を総合的に診る」であった。その人個人の尊厳を守り、患者の視線に立って寄り添い関わることから生まれる信頼関係や全人的医療が精神科医療では重要であることを学んだ。

また、先生の経験則から「大切なこと10箇条」と「負を耐える力」をメッセージとしてお贈り頂いた。これからの人生に示唆を与える重要なワードをご教示頂いたように考える。

【実施日】令和3年9月6日(月)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部内科学講座内科学第三 教授
　　長井 篤 先生
【参加者】18名

概　要

先生は2019年9月に内科学講座第三の教授に就任された。学生時代を含めご経歴を振り返り「挫折を飛躍に変える」「師の良いところを学べ」「診療を楽しむ　研究を楽しむ」等のメッセージを頂いた。

印象に残ったのは大学の4年次にバイクでアメリカ大陸を横断された事である。旅の道中には沢山の苦難があったものの、色々な人の助けを受け、この体験が後々の人生に生き、自分の自信になっていると話された。

また、研修医・大学院生時代や国内・海外留学時代には良き師との出会いがあり、現在の診療・研究に繋がっていると話され、その出会いを「人生の転機」「邂逅」「偉大な人は皆まめ」と表現された。

最後に「自分のやりたいことを楽しみ、臨床・研究に臨んで貰いたい。身近な先生をメンターに医師としての人生も豊かにして行って欲しい」と結ばれた。

第37回 リレートーク

TITLE | 障害児者医療も地域医療です

西部島根医療福祉センター
院長
中寺 尚志 先生

西部島根医療福祉センターは、施設としての福祉機能と病院としての医療機能を十分に活かし、障害をお持ちの子どもからお年寄りまであらゆるニーズに沿ったサービスの提供を行っています。

特徴ある医療は、発達障害を中心とした小児の障害児医療、整形外科の脳原性障害児者に対する機能再建術、痙縮治療、リウマチ科、障害児者の為の歯科診療。全ての障害に対するリハビリテーションであります。この施設は他の一線病院とは違い、ゆっくりとした環境の中で、しっかりと患者さんと向き合うことが出来、文献と症例をあわせ、考える力を養えると思います。

また、地域で安心して暮らせるように生活介護、日中一時支援、短期入所、共同生活援助、相談支援事業などを行っており、福祉施設としての働きと上記医療がコラボすることによって、障害児者が地域で生きることを初めて叶えられる大切な地域医療であると思っています。この施設に興味のある研修医、医師の皆様、私たちと一緒に働いてみませんか。

西部島根医療福祉センター
〒695-0001 島根県江津市渡津町1926
TEL：0855-52-2442（代）

「コロナウイルスまめ知識」

コロナウイルスに自然感染する場合と、コロナワクチンを筋肉内にうった場合とでは生体反応にどのような差異が考えられるのでしょうか。

自然感染の場合、ウイルス粒子が消えた後の後遺症が多いことが挙げられます。また、自然感染の場合には鼻や気管支での粘膜免疫が誘導されますが、ワクチンを筋肉内に注射した場合には、この作用が乏しいことが挙げられます。

後遺症に関連して、自然感染の場合には細胞表面の血圧に関係するACE2（Angiotenisn-converting enzyme2）受容体とコロナウイルスの表面の突起しているスパイク蛋白との結合がおこり、感染の早い段階で速やかにACE2細胞内シグナル伝達がおこると考えられます。このことは、血圧の調整といった生体維持に重要なレセプターを介して細胞内に異常・過剰なシグナルが入ることを意味しており、ウイルス粒子が消えた後も後遺症が多いことを説明する理由の一つと考えられています。

次に局所免疫、粘膜免疫に関連して、ヒトの気管支肺胞洗浄液ではIgG1が主体ですが、気管・気管支領域はIgA主体です。ワクチンを筋肉内に注射した場合には、IgA主体の粘膜免疫誘導は乏しいので、感染の侵入門戸である鼻や気管支においてワクチンによってウイルスの侵入をブロックすることは困難と考えられます。この点で、経鼻ワクチン等のIgAを誘導するタイプのワクチンについても研究開発が進んでいます。

（地域医療支援学講座 教授 佐野千晶）

今後の予定

Career Webinar
令和3年10月20日（水）12：15～12：45

講師：本田 学 先生
島根大学医学部内科学講座膠原病内科 助教

令和3年11月15日（月）12：15～12：45

講師：門田 球一 先生
島根大学医学部病理学講座器官病理学 教授

令和3年12月22日（水）12：15～12：45

講師：鞍嶋 有紀 先生
島根大学医学部小児科学講座 准教授

地域医療Webinar
令和3年10月26日（火）18：00～19：00

講師：木田川 幸紀 先生
隠岐広域連合立隠岐島前病院

令和3年11月26日（金）18：00～19：00

講師：木村 千尋 先生
雲南市立病院 診療看護師

令和3年度島根大学医学部地域枠等入学生全学年会（Web開催）
令和3年10月1日（金）18：00～20：00

第2回しまね総合診療医の集い
令和3年10月3日（日）14：30 ～ 17：30

島根大学医学部附属病院みらい棟 4F ギャラクシー
講師：木島 康貴 先生
島根大学総合医療学講座/大田総合医育成センター

第2回えんネット交流会
令和3年12月予定

編集後記

長引くコロナ禍の中、社会を支えてくださっている医療・福祉・行政・教育等関係者の皆様に日々のご尽力感謝申し上げます。

そして、レターを今号もお読みいただきありがとうございます。高く澄んだ空にうろこ雲やいわし雲など秋独特の雲がみられるようになりました。街の通りを歩いていると、金木犀の甘い香りに足を止められます。これから少しずつ空気の冷たさが身に染みてきます。自然の移ろいを楽しみながら、これまで以上に自身の健康管理に気を付けたいものです。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから➡

発行/島根大学医学部地域医療支援学講座　〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1　[TEL]0853-20-2558　[FAX]0853-20-2563　[E-mail]career@med.shimane-u.ac.jp